

事務アウトソーシングで事務負担が大幅に削減

中小企業においては、パソコンを自由に使いこなせる事務員を採用するのも現状では難しい状況です。

特に従業員が少ない10名未満のところでは、その傾向が顕著です。ある卸売業のC社は、事務員が2名いましたが、1名が退職して、新しい事務員を募集しましたが、希望に合う人材が調達できません。

取りあえず社長及び社長の身内によって、なんとか事務処理をこなしますが、こんなことで経営（経営者として企業を成長させる）に支障が出ます。

そんな時、残るもう1人の事務員が退職の意向を伝えてきました。困った経営者は、人材派遣の利用も考えましたが、費用対効果及びその継続性に疑問を持ち、当社にご相談に見えました。

実は、上記のケースは中小企業にはよくあります。このような状態が繰り返されると、事務処理作業は荒れ、品質は低下し、間違いのもとになります。もっと致命的なことは、経営者が経営者たるべき仕事をする時間を喪失してしまうということです。

今回の卸売業のケースは、取引先の件数が非常に多く、それに伴い受発注の取次ぎ件数も多いため事務処理も大変になります。

対策としては、FAXで入ってきた、受発注を自動的に電子化（PDF）して、パソコン（サーバー含む）に保存していきます。売上処理に関しては、特別な慣例もあるため現場対応が必要です。しかし、仕入伝票の処理及び支払い処理、請求書発行業務に関しては、販売・仕入パッケージソフトで対応します。

ここでの問題は、専属の事務作業員がいないということです。今回のケースでは、C社と当社を通信で繋げて、C社の事務処理関係に必要な情報部分だけパソコンデータを当社と共有します。これによってC社と全く同様の事務処理環境が当社でも共有され、処理できる状態になります。

この方法により、遠隔地においてもC社が外注化したい業務（仕入伝票入力、支払い処理、給与計算、請求書作成処理等）をリアルタイムで処理できます。

外注化することによって、新しい事務員を募集するコストも教育する時間も要りません。また社会保険料や福利厚生、退職金等の人件費コストも必要ありません。またもう1つの効果としてソフトウェアの更新や最新機器のメンテナンスに気を取られることもありません。コスト的には、人材派遣（1400円×180時間）であれば70%程度、パート（900円×180時間）であればほぼ同額で上記のような状況を利用することができます。

結果的にC社は、経費削減と事務員問題の両方を解決することが可能になりました。現状、社長は「顧客拡大」に時間を集中できるようになり、「事務アウトソーシング」によって削減されたコストを販売促進関係に投入しておられます。